

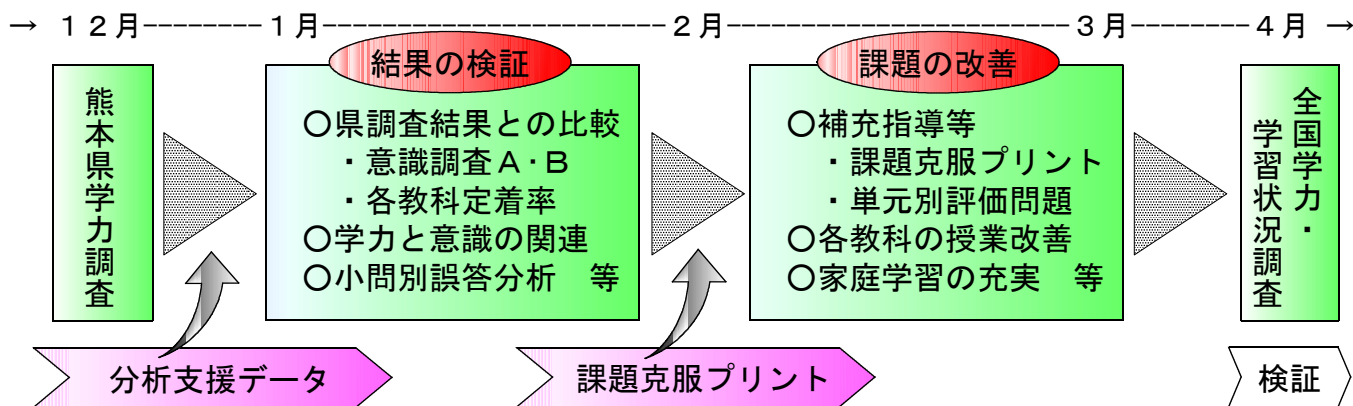
平成25年度「熊本県学力調査」結果（概要）

熊本県教育委員会

県教育委員会では、児童生徒の学力や学習の状況を適切に把握し、教師の指導方法の工夫改善を図るため、「県学力調査（ゆうチャレンジ）」を実施し、その結果を県教育委員会ホームページで報告するとともに、各小中学校へ「分析支援データ」と「課題克服プリント」を提供しました。本リーフレットでは、県全体の分析結果をはじめ、各学校における調査結果の活用方法などを紹介しています。

各学校におかれては、これらを活用して、自校の意識調査と学力調査の結果を県の調査結果と比較・分析するなどして、自校の課題を明らかにするとともに、その課題改善に向けて各教科の授業改善はもとより、補充指導等の充実を図るなど、学校総体として学力向上の取組を検証・改善していただくようお願いします。

<学校における取組の例>



1 質問紙調査の結果

【意識調査 A（児童生徒対象）】

- 中学校では、「前の学年で学習した内容を、もう一度教えてほしい」「授業で難しい内容（問題）に挑戦する時間を増やしてほしい」と回答した生徒が年々増加している。
- 中学校では、1か月に1冊も本を読まない生徒が年々増加している。
- 宿題がないときは家で勉強しない児童生徒が年々増加している。

※ 学校での読書時間の確保や、家庭学習の習慣化などは、今後改善すべき重要な課題です。

【意識調査 B（教師対象）】

- 熊本県学力調査等の結果を指導方法の工夫改善等に活用している教員の割合が増加しているが、依然として5割に満たない。[小学校45.1%(+3.8), 中学校46.8%(+5.3)]※()内はH24比
- 小学校では平成23年度、中学校では平成24年度以降、評価規準（基準）の見直しを行う学校の割合が減少している。[小学校61.3%(-0.9), 中学校74.8%(-6.4)]※()内はH24比

※ 評価の妥当性・信頼性を高めるため、各教科等の評価規準（基準）は常に見直しが必要です。

2 学力調査の結果

- 敬語等の言葉に関する知識や、基本的な計算や観察・実験等の技能など、基礎的・基本的な知識・技能については、概ね定着傾向にある。
- 話を聞いて内容を理解したり、図やグラフを見て情報を正確に読み取ったりすることなどについては、概ね定着傾向にある。
- 「図表やグラフ等を用いて、自分の考えが伝わるように書くこと」や「複数の資料から読み取った情報を関連付けて考え、表現すること」「観察・実験の結果を分析・解釈し、説明すること」など、自ら思考・判断し、目的や条件に応じて自分の言葉で表現する内容には、依然として課題がある。
- 「知識」及び「活用」については、ほとんどの学年・教科で「知識」より「活用」に関する問題の定着率が低いが、一部の学年・教科では基礎的な「知識」に課題がみられる内容もある。
- ◎ 無答率は、概ね減少しており、特に中学校では改善傾向が見られる。

※ 各学校の課題改善に向けては、意識調査と学力調査の結果を関連付けた詳細な実態分析が重要です。

Check (評価・検証)

各学校へ配付した「分析支援データ」の自校のセル(黄色)に、自校の結果を入力してみましょう。すると、県の調査結果と比較するグラフが表示されます。校内研修等において、このグラフ資料等を使って全職員で分析し、意識調査と学力調査の結果から、自校の学力の課題と改善策について共通認識を深めましょう。

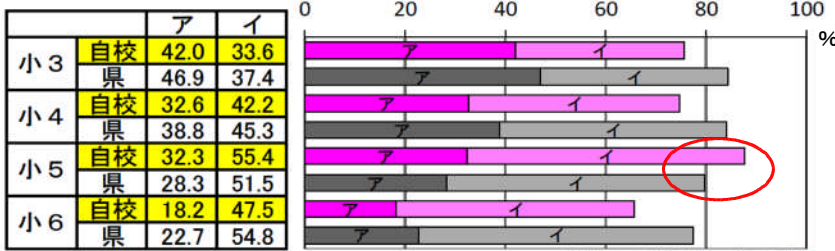
【意識調査結果の分析】

児童生徒の学習意欲や教師の指導方法等は、各学校の学力向上を支える基盤となるものです。これらの状況を県の調査結果と比較・分析して、自校の課題を明らかにしましょう。(分析支援データの活用①)

<意識調査A> 例

※ 自校の数値を入力すれば、右にグラフが表示されます。 ※ 上段: 自校, 下段: 県全体

問3 あなたは、勉強が「おもしろい」「楽しい」と感じることがありますか。
ア よくある イ まあまあある ウ あまりない エ 全くない オ わからない



※グラフには回答ア・イのみ表示

県全体と比べて下回っている学年が多いけど、五年生だけは上回っています。五年生が、勉強が「おもしろい・楽しい」と感じる要因は何でしょうか。五年生の授業の様子を全職員で研究してみよう。



【学力調査結果の分析】

各学校の校内研修等において、自校の各学年・教科ごとの定着率や、各小問別定着率を県全体の定着率と比較・分析して、学校全体で自校の学力の課題を明らかにしましょう。(分析支援データの活用②)

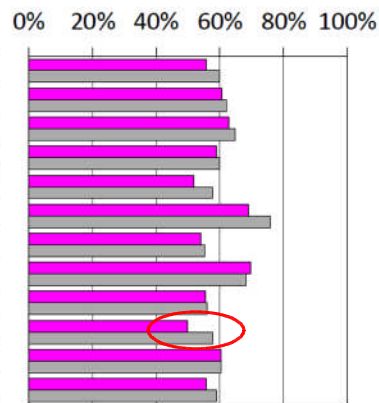
<学年別定着率> 例

中学校 第1学年

※ 自校の定着率を入力すれば、右にグラフが表示されます。

※ 上段: 自校, 下段: 県全体

教科	領域等	定着率 (自校)	定着率 (県)	
国語	総合	55.8%	59.8%	
	領域	話すこと・聞くこと	60.7%	62.0%
		書くこと	62.9%	64.8%
		読むこと	59.0%	59.9%
		伝統的な言語文化と国語の特質	51.8%	57.5%
	観点	国語への関心・意欲・態度	68.8%	75.8%
		話す・聞く能力	53.9%	55.2%
		書く能力	69.6%	68.3%
		読む能力	55.6%	55.8%
		言語についての知識・理解・技能	49.8%	57.5%
	主に「知識」に関する問題	60.4%	60.4%	
	主に「活用」に関する問題	55.8%	58.8%	



中一の国語は県全体を四ポイント下回っています。観点では「言語についての知識・理解・技能」の落ち込みが目立っており、基礎的な知識の定着に課題があると考えられます。

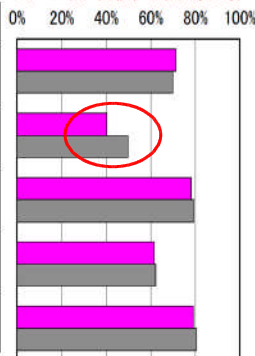


<小問別定着率> 例

※ 自校の定着率を入力すれば、右にグラフが表示されます。

※ 上段: 自校, 下段: 県全体

連番	大問	中間	小問	領域	学習指導要領の内容	出題のねらい	観点	知識活用	定着率 (自校)	定着率 (県)
22	3	(1)		読むこと	ウ 展開や描写に注意し、内容の理解に役立てること	文章中の場面の展開や行動、情景描写に注意して読み進めること。	読む	知識	71.5%	69.8%
23	3	(2)		伝統的な言語文化	(1)ア(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知ること	歴史的仮名づかい「ひ」を現代仮名づかい「い」と読むこと。	言語	知識	40.3%	49.8%
24	3	(3)		読むこと	ウ 展開や描写に注意し、内容の理解に役立てること	文章中の場面の展開や行動、情景描写に注意して読み進めること。	読む	活用	78.3%	79.3%
25	3	(4)		読むこと	イ 目的や必要に応じて要約すること	文章の中心となる内容をとらえ、人に紹介するために要約すること。	読む	活用	61.7%	62.3%
26	3	(4)		読むこと	(関心・意欲・態度)	古典の世界について自分の考えをまとめようとする。	関心	活用	79.1%	80.5%



小問別に定着率を分析すると、「古文の歴史的仮名づかい」に関する基礎的な知識の定着が、不十分であることが分かります。更に解答状況を分析し、補充指導を行いましょ。

※ 網掛けの問題は、平成24年度調査において課題がみられた内容の改善状況を見る問題として出題しています。

※ 課題のある問題が明確になったら、その問題の解答状況(誤答・無答)を詳細に分析してみましょう。

意識調査A(児童, 生徒対象)結果の推移【一部抜粋】 以下に示す数値の単位: %

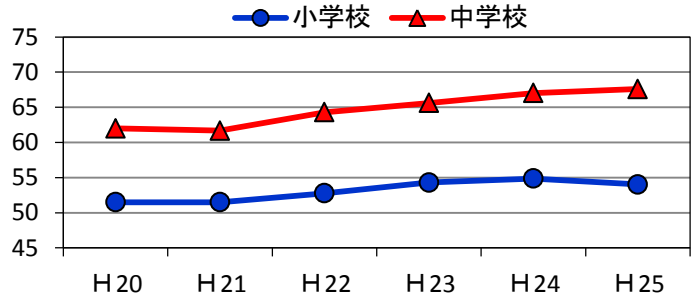
問11 あなたは、前の学年で学習した内容を、もう一度先生に教えてほしいと思いますか。

ア とても思う + イ まあまあ思う

※ グラフの小学校は小3～小6の平均, 中学校は中1～中3の平均

平成21年度以降は増加傾向であり、特に中学校での増加が目立ちます。実態に応じて、つまづいている既習事項を繰り返し指導するなど、個に応じた指導の充実を図る必要があります。

- ・ 小学校3年 : 51. 1%
- ・ 小学校6年 : 56. 9%
- ・ 中学校3年 : 76. 6%

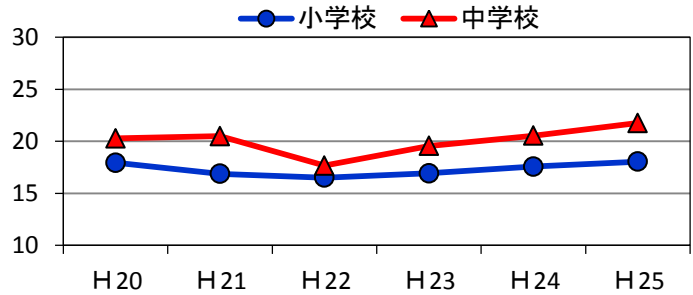


問15 あなたは、家で、学校の宿題のほかにどんな勉強をしていますか。(複数回答可)

エ 宿題がないときはしない

平成22年度以降は増加傾向であり、中学校で宿題がないと家で学習しない生徒が増加しています。自分で計画を立てて予習・復習をするなど、家庭学習の習慣化を図る必要があります。

- ・ 小学校3年 : 14. 8%
- ・ 小学校6年 : 21. 1%
- ・ 中学校2年 : 28. 5%



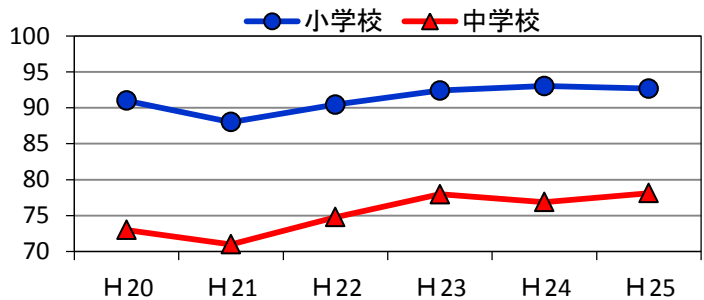
意識調査B(主幹教諭, 教諭, 講師対象)結果の推移【一部抜粋】 以下に示す数値の単位: %

問7 あなたは、日々の授業の中で、児童生徒が自分の思いや考えを書いたり、発表したり、また、児童生徒間で、問題解決の方法等について意見を交換する場を設けていますか。

ア 多く設定している + イ どちらかと言えば多く設定している

平成21年度から増加傾向でしたが、平成23年度以降は横ばいとなっています。特に**中学校では「あまり設定していない」が21.7%**となっています。

児童生徒が自分の思いや考えを表現し、意見を交換する学習を設定するなど、各教科の特性を踏まえて言語活動の充実を図る必要があります。

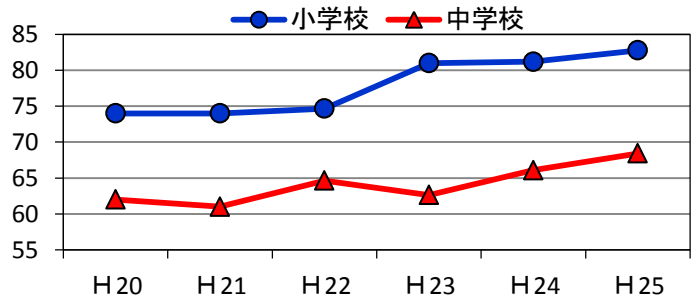


問8 あなたは、授業で、文章、絵や写真、図や表、グラフなどを関連付けて読み取らせ、考えたことなどを表現させるような学習活動を行っていますか。

ア よく行っている + イ どちらかと言えばよく行っている

小学校では平成22年度以降、中学校では平成23年度以降、増加傾向にありますが、**中学校では「あまり行っていない」が30.7%**となっています。

目的や意図に応じて様々な資料を活用し、情報を適切に読み取ったうえで自分の考えを表現させる学習活動を一層充実させる必要があります。

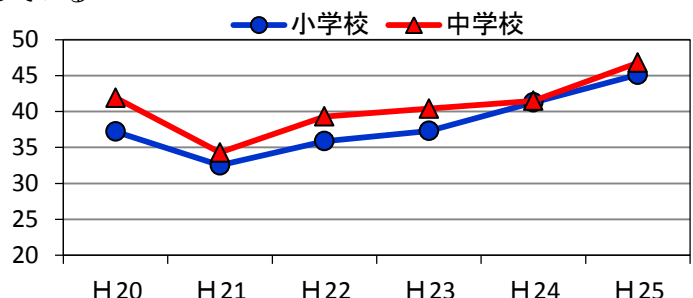


問9 あなたは、「ゆうチャレンジ」や「熊本県学力調査」の結果を、どの程度、指導方法の工夫改善等に活用していますか。(平成24年度「熊本県学力調査」結果報告書の活用を含む)

ア 十分に活用している + イ 概ね活用している

平成21年度以降は増加傾向 (H25は**小学校+3.8, 中学校+5.3**) ですが、依然として小中学校ともに**5割に満たない状況**にあります。

各学校では、県学力調査結果を分析し、自校の課題を把握して指導改善につなげるPDC Aサイクルを組織的に確立する必要があります。



各教科の概要（小学校）

【国語】

1 全体的にみた成果・課題について

- ローマ字を除く「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については概ね定着傾向にある。
- ほとんどの学年において「読むこと」に課題がある。

2 知識・活用に関する問題について

- 知識に関する問題については、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえること」「登場人物の心情、場面についての描写をとらえること」などに課題がある。また、「簡単な言葉をローマ字で書くこと」についても依然として課題がある。
- 活用に関する問題については、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」などに課題がある。

【社会】

1 全体的にみた成果・課題について

- 「商店の仕事の内容」や「古くから残る暮らしに関わる道具」などに関する基礎的・基本的事項の理解については概ね定着傾向にある。
- 「我が国の歴史」については、整理したふせんをもとに武士の生活の様子について表現すること等に課題がある。
- 店の工夫や絵地図のよさについて、自分の生活との関わり等から考え、表現することに課題がある。

2 知識・活用に関する問題について

- 知識に関する問題については、明治期の政策の目的や、産業の近代化等について課題がある。
- 活用に関する問題については、自動車工場の立地条件や自動車生産の特色や工夫について考え、表現することに課題がある。

【算数】

1 全体的にみた成果・課題について

- 「数と計算」における基本的な計算技能については概ね定着傾向にあるが、除法の意味の理解、図と関連付けて除法の場面の数量の関係を理解すること、基準量を求めるために除法が用いられることを理解することに課題がある。
- 「数量関係」における2つの数量の変化を図や表、式を用いて考えること、「図形」の見取図と展開図の面や辺の関係を理解すること、「量と測定」の直方体の体積との関係から水の深さを求めること、測定値の平均の意味を理解することに課題がある。

2 知識・活用に関する問題について

- 知識に関する問題については、式が表す場面の意味の理解、長方形の周の長さや面積の関係、概数の意味の理解、図と関連付けた除法の意味の理解、測定した平均の意味の理解に課題がある。
- 活用に関する問題については、図形の性質と関連付けて図や言葉を使って事象を説明すること、数量の関係を言葉の式に表すこと等に課題がある。

【理科】

1 全体的にみた成果・課題について

- 「物質・エネルギー」の領域においては、物の溶け方の規則性や燃焼の仕組みについての考えをもつことは概ね定着傾向にあるが、電気の働きについての考えをもつことに課題がある。
- 「生命・地球」の領域においては、人の体と運動や動物の発生や成長についての考えをもつことは概ね定着傾向にあるが、太陽と地面の様子との関係についての考えをもつことに課題がある。

2 知識・活用に関する問題について

- 知識に関する問題については、科学的な用語や基本的な観察・実験の技能等の基礎的・基本的な知識・技能に関する事項については概ね定着傾向にある。
- 活用に関する問題については、観察・実験の結果から分かることを考え、表現することに課題がある。

各教科の概要（中学校）

【国語】

1 全体的にみた成果・課題について

- 話の構成や展開、内容などに注意して聞くことや、伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くことは概ね定着傾向にある。
- 読んだ文章を目的や必要に応じて簡潔に要約することや、文章の構成や展開、表現の仕方について評価し、自分の考えを説明することに課題がある。

2 知識・活用に関する問題について

- 知識に関する問題については、常用漢字を読むことは概ね定着しているが、学年別漢字配当表の漢字を書くことには課題がある。
- 活用に関する問題については、文章を読んで場面や登場人物の設定の仕方をとらえることに課題がある。

【社会】

1 全体的にみた成果・課題について

- 気候の特色についてグラフから読み取るなど、資料の情報を目的に応じて読み取る技能については概ね定着傾向にある。
- 歴史的事象に関する複数の資料から読み取った情報を比較・関連付けて考え、自分の言葉で表現することに課題がある。

2 知識・活用に関する問題について

- 知識に関する問題については、地理的分野「日本の諸地域」、歴史的分野「近世の日本」、「私たちと政治」についての理解に課題がある。
- 活用に関する問題については、根拠を示しながら適切に表現することに課題がある。

【数学】

1 全体的にみた成果・課題について

- 「数と式」における基本的な計算技能は概ね定着傾向にあるが、式の値を求めること、整式の乗法、除法の計算、方程式の解の意味をとらえること、平方根の意味の理解や計算に課題がある。
- 「関数」の反比例の意味、具体的な事象を反比例の式や一次関数、二次関数を用いてとらえること、「図形」における半球の表面積を求めること、基本的な作図を活用すること、三角形の合同条件を基に図形の性質を証明すること、「資料の活用」におけるヒストグラムから必要な情報を読みとること、確率の意味の理解などに課題がある。

2 知識・活用に関する問題について

- 知識に関する問題については、式の値を求めること、場面を方程式に表すこと、基本的な作図、半球の表面積を求めること、反比例の意味の理解に課題がある。
- 活用に関する問題については、式等を使って反比例であることを説明すること、グラフ等から必要な情報を読みとり、説明することなどに課題がある。

【理科】

1 全体的にみた成果・課題について

- 「化学」領域における化学反応する物質の質量変化の規則性や水溶液の酸とアルカリの性質については概ね定着傾向にある。
- 「物理」領域における光の反射・屈折について実験結果を基に考察し表現すること、圧力や仕事率を計算して求めること、「生物」領域における蒸散量の計算、赤血球の働きと呼吸の関係に課題がある。

2 知識・活用に関する問題について

- 知識に関する問題については、科学的な用語や観察・実験の技能等の基礎的・基本的な知識・技能に関する事項などは概ね定着傾向にある。
- 活用に関する問題については、基礎的・基本的な知識や技能を活用して、観察・実験の結果を分析・解釈し、説明することに依然として課題がある。

【英語】

1 全体的にみた成果・課題について

- 「聞くこと」では、まとまりのある英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることは概ね定着傾向にある。
- 「読むこと」では、あらすじや大切な部分などを正確に読み取ることに課題がある。
- 「書くこと」では、自分の考えや気持ちなどが相手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して書くことについて改善傾向は見られるものの、依然として課題がある。

2 知識・活用に関する問題について

- 知識に関する問題については、正しい語順で書くことや、基本的な文法事項の定着に課題がある。
- 活用に関する問題については、自分の意見や考え等をまとめ、既習事項を活用して表現することなどに課題がある。

平成24年度調査において課題がみられた内容の改善状況【経年比較問題】

※[]内は学習指導要領の内容の記号, 定着率の右の()内は平成24年度に出題した類似問題との比較です。

		依然として課題があるもの	改善傾向がみられるもの
小 学 校	国語	●引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書くこと。[5・6年B(1)エ] 5年[4](3) 定着率: 49.1% (+21.4) 無答率: 7.7%	○日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。[5・6年伝イ(ク)] 6年[2](4)① 定着率: 87.1% (+24.3) 無答率: 0.2%
	社会	●国土の地形や気候の概要, 自然条件から見て特色ある地域の人々の生活[5年(1)イ] 5年[2](4) 定着率: 46.9% (+4.9) 無答率: 16.2%	○源平の戦い, 鎌倉幕府の始まり, 元との戦いについて調べ, 武士による政治が始まったことが分かること。[6年(1)ウ] 6年3 定着率: 51.2% (+29.6) 無答率: 3.8%
	算数	●立方体, 直方体について知ること。[4年C(2)ア] 5年[8](1) 定着率: 36.5% (+5.7) 無答率: 10.1%	○比について理解できるようにする。[6年D(1)] 6年[3](2) 定着率: 51.8% (+19.5) 無答率: 2.4%
	理科	●乾電池の数やつなぎ方を変えると, 豆電球の明るさやモーターの回り方が変わること。[4年A(3)ア] 4年3 定着率: 39.2% (-0.5) 無答率: 6.0%	○植物体が燃えるときには, 空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。[6年A(1)ア] 6年[4](1)イ 定着率: 66.8% (+13.0) 無答率: 1.2%
中 学 校	国語	●文の成分の順序や照応, 文の構成などについて考えること。[2年伝イ(ウ)] 2年[2](3)① 定着率: 17.2% (-22.5) 無答率: 11.2%	○集めた材料を分類するなどして整理するとともに, 段落の役割を考えて文章を構成すること。[1年B(1)イ] 1年[4](5) 定着率: 66.8% (+38.2) 無答率: 14.1%
	社会	●市民革命や産業革命, アジア諸国の動きなどを通して, 欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したこと。[歴史(5)ア] 2年[4](6) 定着率: 44.4% (-1.9) 無答率: 23.6%	○世界各地における人々の生活の様子とその変容について, 世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。[地理(1)イ] 1年[2](3) 定着率: 43.5% (+10.6) 無答率: 3.5%
	数学	●方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解すること。[1年A(3)ア] 1年3 定着率: 23.5% (-3.2) 無答率: 9.1%	○文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解すること。[2年A(1)イ] 2年[5](1) 定着率: 54.8% (+43.4) 無答率: 24.8%
	理科	●霧や雲の発生についての観察, 実験を行い, そのでき方を気圧, 気温及び湿度の変化と関連付けてとらえること。[第2分野(4)イ(ア)] 3年[3](5)② 定着率: 10.2% (-6.4) 無答率: 36.8%	○圧力についての実験を行い, 圧力は力の大きさと面積に関係があることを見いだすこと。[第1分野(1)イ(イ)] 2年[1](5) 定着率: 29.4% (+26.9) 無答率: 24.7%
	英語	●物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。[ウ(ウ)] 2年[8](2)① 定着率: 15.7% (-4.0) 無答率: 30.0%	○自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように, 文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。[エ(オ)] 1年[5] 定着率: 49.8% (+16.3) 無答率: 4.7%

Action (改善・克服)

自校の課題を共通認識したうえで、全学年・全教科において改善に向けた共通実践に取り組みましょう。

各学校へ配付した「課題克服プリント」は、県学力調査で明らかになった各教科の課題を速やかに改善するためのものです。また、「単元別評価問題」を県教育委員会ホームページに掲載しています。これらを活用した補充指導等に取り組み、本年度のうちに当該学年の課題改善を図りましょう。

さらに、4月に行われる全国学力・学習状況調査において、自校の課題の改善状況を検証していきましょう。

【課題克服プリントの活用】

例えば、小学校の理科では、第4学年「電気の働き」の内容が依然として課題です。

●平成24年度 小4理科 **1**(4)…**定着率39.7%**

●平成25年度 小4理科 **3**(3)…**定着率39.2%**

右の課題克服プリントは、この課題の改善に向けて各学校での補充指導等を想定して作成しています。学校の実態に応じて授業時間や朝自習、学力充実の時間等で活用しましょう。

＜活用例＞

- ①授業で再度実験した後に、確認テストとして実施する。
- ②朝自習や学力充実の時間等に実施する。 等

各学校に配付したCDには、各学年・教科ごとに約20分の解答時間を想定したA4判の問題と解説のPDFデータを収録しています。



県全体の課題は、多くの学校にも当てはまります。各学校での速やかな補充指導等が必要です。
この「課題克服プリント」を活用して、本年度内に課題改善を図りましょう。

平成25年度 熊本県学力調査 (ゆうチャレンジ) 課題克服プリント
～小学校第4学年 理科「電気の働き」～

4年()組()番 名前()
ひろしさんは、かん電池2こを使っていろいろな回路を作りました。そして、モーターが回る速さのちがいを調べてみました。

(1) つぎのA、イで説明しているつなぎ方になるように、図の中のモーターとかん電池を線をつなぎましょう。また、それぞれのつなぎ方の名前を、下の【 】に書きましょう。

ア かん電池1このモーターより、速く 回るつなぎ方	イ かん電池1このモーターと、回る速さが変わらないつなぎ方
つなぎ方の名前【 】	つなぎ方の名前【 】

(2) ひろしさんは、いろいろな回路を、モーターが回る速さごとに次の3つのグループに分けました。①～③の()の中に、②～③から当てはまる記号を書きましょう。

②	①	③

①()のつなぎ方は、かん電池1このときとくらべて、モーターが速く回る。
②()のつなぎ方は、かん電池1こと同じ速さで、モーターが回る。
③()のつなぎ方では、モーターは回らない。

(3) 上の表の①と②の説明に当てはまる回路を使って、それぞれモーターを回し、2つをくらべたところ、回る速さと回り続ける時間以外にちがう点もう一つ見つかりました。それは何か答えましょう。また、そう考えた理由も書きましょう。(40分(観察15分))

【ちがう点】 モーターの	【理由】
-----------------	------

【ゆうチャレンジ単元別評価問題の活用】

例えば、中学校の数学では、第1学年「方程式の必要性と意味及び解の理解」の内容が依然として課題です。

●平成24年度 中1数学 **2**(4)…**定着率26.7%**

●平成25年度 中1数学 **3**(3)…**定着率23.5%**

この内容は、過去の全国学力・学習状況調査でも課題となっており、各学校で確実に改善を図る必要があります。まずは自校で課題がある内容から、各教科の単元別評価問題を活用しましょう。

＜活用例＞

- ①県学力調査で定着率が低かった単元の問題を実施する。
- ②日頃の授業の単元末に、確認テストとして実施する。 等

単元別評価問題は、県教育委員会ホームページ(義務教育→学力向上)に各教科の問題等のPDFデータを掲載しています。



学校によっては、課題克服プリントの内容以外にも課題があることが考えられます。自校の課題に該当する「ゆうチャレンジ単元別評価問題」を活用して、課題改善に取り組みましょう。

「ゆうチャレンジ単元別評価問題」 中1 1年生 数学
「9 方程式の必要性と意味及びその解の意味」「10 等式の性質と方程式の解き方」

□ 次の問いに答えなさい。

(1) はるこさんが方程式を解いたら解は3になりました。はるこさんが解いた方程式を次の(A)～(E)の中から選び記号で答えなさい。 **考 10**

(ア) $x - 4 = 7$

(イ) $5x - 2 = 8$

(ウ) $\frac{2x+3}{3} = \frac{x+3}{2}$

(エ) $200(x+5) = 500(x-4)$

(2) 次のように、方程式を解きました。□にあてはまる数をそれぞれ書きなさい。 **技 10**

$x - 9 = -2$
 $x = -2$ □
 $x =$ □

(3) 次の方程式を途中の計算も書いて解きなさい。 **技 10**

$2(x-3) = 3x + 12$

いっいち全部解かなくても…
文字に代入してみても等式が成り立って
それが解なんだから…

はるこさん

熊本県学力調査を活用し、子どもたちが「好き」「分かる」と実感できる授業の創造を！

● 活用ステップ1（県学力調査を活用した学力向上の検証改善サイクルの確立）

定着率が低い問題は経年比較においても低い傾向にあり、児童生徒がつまづきやすい課題が明らかになっています。本リーフレットには、本年度の県学力調査で明らかになった各教科の課題や、児童生徒の学習状況、教師の指導状況等を掲載しています。

各学校においては、自校の調査結果を県全体の傾向や過去の結果と比較するなど、具体的に分析・評価し、学力向上に向けたP(計画)→D(実施)→C(評価)→A(改善)の検証改善サイクルを確立しましょう。



● 活用ステップ2（県学力調査を活用した学力向上の取組）

県学力調査には、基礎的・基本的な知識・技能だけでなく、学ぶ意欲をはじめとして、思考力・判断力・表現力等を測る問題があり、これは今、求められている学力と軌を一にするものです。朝自習や学力充実の時間、家庭学習等の課題として、1問だけや1枚だけなど、児童生徒の実態に応じ、学力向上に向けて効果的かつ積極的な活用に努めましょう。



● 活用ステップ3（県学力調査を活用した授業改善）

【視点1】子どもたちの目が輝く教材の開発を

県学力調査の問題や素材を参考に、思考力・判断力・表現力等を育む教材を開発しましょう。

★ 教材開発の視点例（算数・数学科）

- 実生活や他教科との関連があるもの。
- 多様な見方や考え方がうまれるもの。
- 情報過多や条件不足のもの。
- 児童生徒の予想はずれたり、意外性・不思議さがあるもの。
- 簡単な操作計算を進めていくうちに、規則性等に気付くもの。
- 一つの対象についても考察から広い対象への考察に移っていく一般性や、新しい見方や問題等が生まれる発展性があるもの。



【視点2】子どもたちの心が躍る発問や学習活動を

県学力調査の問題が求めている力や問い方、問題構成等を参考に、思考力・判断力・表現力等を高める発問や学習活動を工夫しましょう。

★ 発問例（国語）

- （登場人物）になったつもりで「 」に入る言葉を考えましょう。理由も考えましょう。
- あなたが（登場人物）なら、（登場人物）に何と話しかけますか。
- この話のような体験をしたことはありませんか。そのときの様子や気持ちが分かるように、みんなに教えてください。

【視点3】子どもたちのやる気を引き出す「認め、ほめ、励まし、伸ばす」評価を

県学力調査の問題や評価基準を参考に、思考力・判断力・表現力等の定着状況を把握する評価を工夫し、指導と評価の一体化を図りましょう。

※ 「平成25年度熊本県学力調査結果報告」は、熊本県教育委員会ホームページ(<http://kyouiku.higo.ed.jp/>)から、**【義務教育→学力向上→平成25年度熊本県学力調査結果報告】**を参照してください。

お問い合わせ先

熊本県教育庁教育指導局義務教育課義務教育指導係

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18-1 TEL:096-333-2688